

## 「フランスの精神分析」(『精神分析・精神病理の臨床研究』第一期)

フロイト理論の根底には、精神病理学的(メタサイコロジー的)思考がある。精神疾患の正確な把握なくして、精神分析臨床で起きている事柄を的確に把握し、介入することは難しい。このような認識を正当に継承し、精神分析の臨床を展開してきたのは、フランスの精神分析であろう。

日本で主流となっている精神分析は、英米圏の精神分析である。しかし、世界の趨勢のなかで、英米圏のそれとは異なったフランス独自の文化的土壌から生まれた精神分析があり、とりわけロマンス語圏の国において広範な影響力を持っている。

フランスの精神分析と言えば、ラカンの名前と結びつけられて語られることが多いが、それは、あくまでその潮流の一つでしかない。フランスの精神分析は、日本の臨床家のあいだに生きたものとして浸透していないどころか、その存在さえ知られていない。その思考と臨床のスタイルを導入するのがこのセミナーの目的である。

**日 程**：2022年5月～2023年3月(7月、11月は休み)全9回

第二日曜日(原則)、6月のみ第一日曜日、午後1時30分から4時まで

**ファシリテーター**：十川幸司

**形 式**：担当者が指定された論文のレジュメを発表し、全員で討論する。

**テキスト**：その都度、次回分の文献を指定し、配布する。

(フランス語文献が対象だが、フランス語が全く読めなくても参加可能なように、英訳、邦訳のある文献を取り上げる)。

**参考文献**：英語で読めるものとしては、**Reading French Psychoanalysis (Routledge,2010)**が全体像を理解するのに役立ちます。

**定 員**：10名程度

**資 格**：臨床に携わり、毎回指定された文献を精読したうえ、参加できる人。  
(フランス語文献を読めるようになりたいという方も歓迎します)。

**場 所**：TKP市ヶ谷カンファレンスセンター

(参加人数、感染状況によって変更あり)

感染状況によっては、zoomによるオンラインセミナーとします。

**参 加 費**：30000円(参加者が決定次第、振り込み情報をお伝えします)

(概要案)【1】総論：歴史的展望【2】否定の仕事：アンドレ・グリーン【3】精神病：ピエラ・オラニエ【4】秘密：セルジュ・ティスロン【5】文字と症状：セルジュ・ルクレール【6】身体：クリストフ・ドジュール【7】皮膚：ディディエ・アンジュー、【8】セクシュアリテイ：ジャック・アンドレ【9】自閉：J-C・マルヴァル

主催：小寺記念精神分析研究財団

小寺記念精神分析研究財団主催／2022年度

## フランスの精神分析参加申込書

参加申込書は、下記住所まで E-mail または Fax にてお送りください。

〒160-0004 東京都新宿区四谷3丁目4番 SCビル6階

小寺記念精神分析研究財団セミナー事務局

Fax : 03-3350-9749 E-mail : kodera.kt@nifty.com

申込締切：4月25日（月）

申込 月 日

フリガナ			
氏名	(19 年生)		
勤務先			
所属		職種	経験年
連絡先住所 自宅・勤務先 (どちらかに○)	〒		
電話(携帯可) 自宅・勤務先 (どちらかに○)		e-mail アドレス	

本セミナーへの参加動機

--

**基本知識**

フランス語力は（該当する□にチェックしてください）

ある程度ある□

初心者レベル□

全く読めない□

**その他**（あればご自由にお書きください）

**参加費：30,000円**

☆参加者のメンバー構成および採否に関しましては、当方にご一任いただきます。締め切り後、決定次第、メールにてご連絡いたします。振込先は、その際ご案内します。

本セミナーの案内をどのようにして知りましたか？該当するものに○をお付け下さい。

郵便・ホームページ・メール・知人の紹介・その他（ ）

※記載いただいた個人情報は、セミナーのご連絡及びご案内のみに使用いたします。